「ぼたもち」と「おはぎ」について

冬の寒さもやわらぎ、急に春らしくなりました。
そして春のお彼岸の時期です。
春と秋のお彼岸は、それぞれ「春彼岸」「秋彼岸」と呼ばれています。春彼岸は３月の春分の日を中日として前後３日間を合わせた７日間、秋彼岸は９月の秋分の日を中日として前後３日間を合わせた７日間です。春分の日と秋分の日は毎年同じというわけではなく、年によって異なり、お彼岸もその年によって異なります。

お彼岸と言えば「ぼたもち」や「おはぎ」を思い浮かべる方も多いでしょう。
そして「ぼたもち」と「おはぎ」の違い、みなさんわかりますか？

春彼岸

牡丹の花の時期であるため「ぼたもち」と呼ばれる
牡丹の花に似せて、大きく丸い形にする
小豆の収穫時期から時間が経つため、こしあんを使う

秋彼岸

萩の花の時期であるため、「おはぎ」と呼ばれる
細長く小さめの形にする
秋に収穫されたばかりの小豆は皮が柔らかいため、つぶあんを使う

その他にも、うるち米が「おはぎ」、もち米が「ぼたもち」など諸説あるようです。
小豆の赤い色が、魔除けの効果があるされ、色も華やかで、慶事に使われます。お彼岸はご先祖に思いを馳せて供養する仏教行事の一つです。亡き人への思いが届きやすくなるお彼岸に、邪気や災難を防ぐ小豆を使った「ぼたもち」や「おはぎ」をお供えしてお墓参りをし、あの世での幸せと無事を願う習慣が根づきました。